

2022年2月25日

## CPIM 政治局声明「ウクライナ：優先すべきは平和」

<https://cpim.org/pressbriefs/ukraine-peace-priority>

1 インド共産党（マルクス主義者）は、ロシア・ウクライナ間の武力紛争に深刻な懸念を表明する。

ロシアがウクライナに対して軍事行動をとったのは残念なことだ。武力による敵対行為を直ちに停止し、平和を確立する必要がある。

2 ソビエト連邦の解散後、ロシアに生存の保証が与えられた。

しかしそれに反して、米国が主導する NATO は、着実に東方に勢力を拡大している。

その流れの中で、ウクライナを NATO に加盟させようとする努力は、ロシアの安全を直接脅かすことになる。

現在では東欧との国境に NATO 軍が布陣し、ミサイルが配備され、ロシアを脅かしている。

ロシアは我が身の安全を懸念している。そして、ウクライナが NATO に加盟しないことをもともとめている。その要求は正当である。

3 ロシアは自国の安全保障のためにウクライナの NATO 非加入をもとめた  
が、米国と NATO はこれを拒否した。それだけでなく、米国はウクライナへの  
軍の派遣を目論んだ。このような米国の好戦的態度は、さらに緊張を強めた。  
今後、ウクライナおよび隣接する地域に平和をもたらすためには、東部のドン  
バス地域のロシア人社会をふくむすべての人の懸念に対し、真剣に対処する必  
要がある。

両者はただちに交渉を再開し、それ以前に合意した立場に復帰し、それらの合意を遵守する必要がある。

\* インド共産党（マルクス主義者）はインド政府に対し、ウクライナで立ち往生している数千人のインド市民・学生の安全を確保するための措置を直ちに講じるよう要請する。

.....

2の条項はインドにとっては常識かもしれないが、日本人にはわかりにいいと思います。

NATO というのは米国と西欧諸国が第二次大戦後に結んだ北大西洋条約に基づく軍事同盟です。

その目的はソ連・東欧の社会主義国と対峙し、西欧諸国(もっと言えば資本主義体制)を守ることです。

そのために独自の軍事力を持ち、独自の軍事行動(もっと言えば米国の意に沿った行動)をとることができます。

本来の目的からすれば、ソ連・東欧諸国の崩壊を以て存在意義は消失し、国連憲章上の根拠(集団安保)も消滅しました。

しかし今では資本主義国となって、敵でもなんでもなくなったロシアを、事実上の仮想敵国に仕立て上げています。ロシアから見れば「それって、話違うじゃん」ということになります。冷静かつ客観的に見れば、これは国際ルールを無視したいじめに過ぎません。

NATO 日米安保 リオ条約 は戦後の三大軍事同盟であり、非同盟運動が真正面から向き合わなければならないシステムです。

インド共産党(M)の主張は、個別のウクライナ問題ではなく、こういう軍事同盟で世界を支配するというシステムがいかがなものかという問題提起を含んでいるのです。(編集部)